



「E-NEWS むらやま」で検索または 右記二次元コードから、バックナンバーも見ることができます。

郷土の魅力発見・体験プログラム普及事業

地域に飛び出す中学生～「サードプレイス Jr.」霞城公民館の実践～

この事業は、公民館を活動拠点とし、中学生が小学生向けに、「地域の良さを体感できるプログラム」を企画・実践するものです。山形市教育委員会が「サードプレイス Jr.」と名付け、事業を進めてきました。その中で、霞城公民館の実践を紹介します。

霞城公民館文化祭での企画・運営「ペタペタスタンプラリー&縁日」 10/26(sat)・27(sun)



この事業に参加したのは山形市内の7名の中学生。夏休みを利用して協議を重ね、上記写真のような内容を企画しました。当日の運営ボランティアを中学生が募り、中・高・大学生17名の協力を得て実施することができました。各ブースで来場者から歓声上がるなど、大盛況の2日間となりました。

中学生の学びの場 ～ 地域を舞台に学ぶ・つながる ～ (参加した中学生の感想)

- 自分事として考える機会
- 自分たちで考え実践した経験
- 地域とのつながりを実感



活動が計画的で、その都度どうしたら良くなるのかを考えることができた。



当日の運営は大変だったけれど、楽しそうな子がたくさんいて幸せだった。



みんなで協力して企画を考え、幅広い年代の方とたくさん触れ合えて、とても楽しかった。



本事業のねらいは、「地域における中学生の学びの場の創出」と、その企画に参加した小学生が中学生になり、今度は企画側として参画するといった、「地域貢献の循環」を生み出していくことです。

学校・家庭以外のもうひとつの場所(サードプレイス) ≡ 公民館



Q. あなたにとって、霞城公民館とはどんな場所?
 ・いろいろな人と関わることができる場所 ・いろいろなことができる場所 ・身近な場所 ...etc

中学生にとって、公民館が【チャレンジできる場、人とつながる場】となり、中学生自身がつながりを紡ぎ、地域での学びの循環を創っていくことが、地域の活性化につながっていきます。

“地域づくりは、人づくり”のもと、今後も村山教育事務所は、社会教育の推進を図っていきます。

令和6年度教育山形“さんさんプラン”

「教科担任マイスター制度」実践紹介

「教科担任マイスター制度」は、“教育山形「さんさん」プラン”の一環として、令和4年度からスタートし、今年度は小学校16校、中学校2校で実施しました。マイスター配置校では、校内OJTの活性化と算数・数学・英語の教科指導力の向上を目指し、教科担任制を進めています。学校運営を工夫し、新たなシステムの構築や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいる事例がたくさん見られました。以下に学校の先生方の声を一部紹介します。

東根市立長瀬小学校

【学校の体制】

教科担任制を実施して3年目。今年度は学年や教科の枠を広げて全学年で教科担任制を行っている。教科担任が行う授業時間を固定し、年間を通して確実に実施できるよう時間割を調整した。

○校内OJTの活性化

- 職員間で教科担任制の目的を共有し、そのメリットを踏まえた授業の在り方について改善を図ることで校内研究の充実につながった。また、マイスターが中心となって子どもや職員に対して教科担任制についての意識調査を行い、実態を把握した上で授業づくりに活かしてきた。
- 全担任が自分の担当学年以外の授業を受け持つことで学校全体がチームとなり、子どもの学びや成長を見取る雰囲気醸成され、子ども理解が深まっている。

○教科指導力の向上

- 算数科の授業では、一単位時間で「目標」「学習活動」「評価」を明確にすることで、子ども自身が自分にとってどんな力が付いたのかを実感できるようにした。
- マイスターは、算数科の教科担任と、その单元の中で育成を目指す資質・能力を共有し、授業づくりを行った。授業における子どもの実態を見取りながら、单元全体を見通したつまづきを予想して授業を構想することで、日常的・継続的に授業改善を図ることができた。



【授業後の振り返りの様子】

大石田町立大石田中学校

【学校の体制】

マイスター制度の具体的な取組みについて、学区内の小学校に周知する機会を設けた。小中連携の視点から、中学校のマイスターが小学校を訪問し、授業づくりについて共に研修を行うことができる体制を整えた。

○校内OJTの活性化

- 校内研究会では、育成を目指す資質・能力について、職員間で共有し、子ども主体の授業への意識を高めている。
- マイスターは、県内の中学校マイスターの研修で学んだことを校内の教員に周知したり、若手教員と共に授業づくりを行ったりして、研修の充実を図っている。

○小中連携による教科指導力の向上

- マイスターは学区内の各小学校を定期的に訪問し、授業指導をしたり師範授業を行ったりした。算数・数学の9年間の系統性を意識し、特に課題と感じている領域や单元について、子どもが深い学びに至る手立てなどを小中学校の教員が共に教材研究を行うことで、教科の専門性への理解が深まった。また、夏季研修会では学区内の小中学校の教員が一堂に会し、「わかる授業」について意見交換を行った。



【小中合同の夏季研修会の様子】